

「男女共同参画社会の実現に向けての県民意識調査」調査項目等に係る意見等

1 委員意見のとおり修正

No.	設問番号	意見	理由	対応
1	表紙	「おおむね30～40分程度」を「おおむね30分程度」に修正する。	40分間は、回答者にとって負担感を与え、回収率が下がる恐れがあるため。	委員意見のとおり修正
2	問3	「子供ができたら結婚すればいい。」という選択肢を追加する。		
3	問5	選択肢に「子どもの送迎、勉強や遊びの世話」という趣旨の文言を追加する。	乳幼児の世話という項目があるが、児童生徒の世話という項目がない。保護者は、小学生の習い事等の送迎や遊びの世話（危険から、子どもたちだけでは遊ばせられないことも多い）、勉強の面倒をみること（音読など親が相手をする必要がある宿題も多い）などに多くの時間がとられるという実感がある。	
4	問7	2 「レイプ（強姦）などの性暴力」を、2 「レイプ（強制性交等）」などの性暴力に変更する。	性犯罪を厳罰化する刑法改正に伴い、法務省が従来の「強姦罪」から変更した新たな名称である。また、強姦罪という「加害者は男性、被害者は女性」であることを前提とした名称を変え、性差をなくすことを踏まえている。	
5	問7	選択肢にLGBTへの偏見と無理解を追加する。	問2 に「LGBT」が追加されましたが、前回の懇話会で項目を設けるという意見があったと記憶している。	
6	問15	「10家事や子育て、介護に専念したいから（重点を置きたいからの方が、幅がある）」この選択肢を「1」に置かねばならない。自身の意思で選択していることが自立である。現在の「1両立困難だから」はあきらめの結果。回答数が多いか少ないかは別として、ポジティブな選択肢を頭に記入してほしい。		
7	問17	選択肢3「義務化しないと、男性の育児休業の取得は進まないから」を「義務化すると、とりやすい雰囲気ができるから」に修正する。	ポジティブな表現にすべき。	
8	問16 から 問18	「男性の育児休業の義務化」の意味の説明がないので、言葉から解釈するしかない。説明を記入してください。		
9	問18	また、回答欄に、「義務ではなく、夫婦の選択・判断で行うべき」のようなポジティブな選択肢が必要。義務化しないと進まないという問17と対になる回答。		
10	問19	選択肢2「働き続けることへの女性自身の意識改革」を「ライフスタイルに対する女性の意識改革」に修正する。	仕事と家庭全般に対する女性の意識改革が必要だから	

No.	設問番号	意見	理由	対応
1 1	問 1 9	選択肢に「家事育児に対する社会通念の変化」あるいは「仕事や家庭生活についての多様性への社会的寛容さ」というような趣旨の選択肢を追加する。	社会制度が整っても「子どもが3歳までは家にいるべき」「妻を働かせるなんてみっともない」「男が保育園の送迎をするなんてありえない」というような社会通念に縛られて制度利用ができないこともありそうなので。（「環境整備」といえるかわかりませんが・・・もっとも、そうであれば『男性の家事参加に対する意識改革』も環境整備といえるか疑問。）	
1 2	問 2 2	選択肢に、「ワークライフバランスに配慮した組織運営がなされていないから」という趣旨のものを追加。	選択肢2が類似のようにも思えますが、選択肢2は「男性優位」であり、「ワークライフバランス」とは別概念だと思う。ここにいう「ワークライフバランスに配慮した組織運営がなされていない」とは、会議を夜間に開催したり、終業後の「飲みニケーション」や休日のゴルフに参加しなければ社内での地位が危うくなったり等々、24時間仕事に捧げなければキャリアアップできない状態のことを念頭に置いた。	
1 3	問 2 3 問 2 4	問 2 3の選択肢1 1「結婚・出産を機とした退職の勧奨」1 2「一定の年齢以上の女性に対する退職の勧奨」については、優遇されている場合の設問だから、「勧奨」を「勧奨がない」に修正する。		
1 4	問 2 3 問 2 4	選択肢から性の記述を削除し、選択肢をすべて同じにすべきでは。具体的には、「11 結婚・出産を機とした退職の勧奨」を2 4にも加え、「12 一定の年齢以上の女性に対する退職の勧奨」は「1 2 一定の年齢以上の女性に対する退職の勧奨」と変更して2 4にも加える。	男女で選択肢を変えることは本アンケートではふさわしくないと感じたから。	

2 委員の意見を踏まえた事務局修正案

No.	設問番号	意見	理由	対応
15	問1	(ア)と(キ)の違いがよくわからない。		(ア) は全体的に、(イ)から(ケ)までは個別の観点。わかりやすくするために、レイアウトを修正。
16	問7	人権侵害に対する選択肢が性的なものばかりのような気がする。 「部落民」、「障がい者」、「LGBT」などもっと選択肢があってもいいのでは？		人権侵害の中でも、男女差の観点から、性差に係る人権侵害について選択肢を設定しているので、LGBTを選択肢に追加したい。
17	問8	あなたは、これまでに配偶者や同棲相手が <u>いたことがありますか。</u> ⇒あなたは、これまでに配偶者や同棲相手が <u>いる(いた) ことがありますか。</u>	すべての方への質問項目なので、既婚者で死別・離別していない者も該当すると思われる。	委員意見を踏まえ、「あなたは、配偶者や同棲相手が <u>いますか。あるいは、これまでにいたことがありますか。</u> 」に修正。
18	問19	選択肢「1」を「男女が共に家事や育児などの家庭的責任を負うという意識改革」に変更してはどうか。	現状の選択肢の表現では、問題を矮小化しているように感じるため。	「男女が共に家事等の家庭的責任を負うという意識改革」とする。
		「男性の家事参加に対する意識改革」という選択肢の文言を、「男性の家事育児分担に対する意識改革」と変更する。	実際には、「家事」は大した問題ではなく「育児」が問題であること、「参加」という意識ではなく当然のこととして「分担」という意識を持つことがより本選択肢の趣旨に合致するため、変更が必要と感じました。	
19	問20	質問文「今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。該当する番号 <u>すべてに</u> ○をつけてください。」を 「今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動（以下、これらをまとめて「家事等」といいます）に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。該当する番号 <u>すべてに</u> ○をつけてください。」に変更する（赤字が変更部分）。	選択肢1, 2には「家事など」とありますがその定義が不明です。当事者からすると、家事はさして問題ではなく、育児が大問題という意識もあるので、「家事など」の定義のあいまいさが誤った回答に誘導してしまう可能性もあると思います。そこで、「家事など」の定義を明確にする必要があると考える。	全ての設問・選択肢について、表現を整理し、「家事・育児・介護」を「家事等」として定義（問4の選択肢3で定義）。 委員の意見を踏まえ、地域活動、家事等とする
20	問22	選択肢「5」の文言を「選挙の立候補者の男女比率の同等を目指すクオータ（割当て）制度導入の遅れや議員の育児休業の取得など、議会活動をしやすい環境整備が不十分だから」	議員の育児休業の取得に対する社会の理解が得られていないから」では、実態をとらえていないと感じる。また、諸外国では、国のリーダーが男女を問わず、育児休業を取得しており、女性議員の育児休業の取得」と限定すべきではないと思うため。	環境整備については、選択肢6があるため、選択肢5は、「選挙の立候補者の男女比率の同等を目指すクオータ（割当て）制度導入の遅れや、議員の育児休業の取得に対する社会の理解が得られていないから」に修正する。

No.	設問番号	意見	理由	対応
21	問27	<p>選択肢5「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」から『優秀な』を削除する。</p> <p>「活躍の機会に男女差を設けることは不当だから」という趣旨の選択肢を追加する。</p>	<p>優秀でない人材は活躍できなくても良いのかといえばそんなことはないと思うので（現状は、男性は「そこそこ」であれば活躍でき、女性は「優秀」でないと活躍できないという環境であると感じている）。</p> <p>なお、私の感覚では、そもそも自身の能力を発揮することについて男女に差を設けること自体が権利侵害であって、女性の活躍を推進することのメリットを問うこと自体設問としてあまりこのましくないようにすら感じる（社会的にメリットがなければ女性が活躍してはいけないのか、と感じてしまう。活躍するのは当然の権利では?）。</p> <p>「活躍の機会に男女差を設けることは不当だから」というような選択肢も可能であれば入れて欲しい。</p>	<p>「男女問わず活躍できるようになるから」と修正。</p> <p>「男女差が解消されるから」という選択肢を追加。</p>
22	問30	<p>選択肢に「収入が低く、自分の生活に精一杯で子どもを扶養できる余裕がない」という趣旨の選択肢に修正する</p>	<p>類似の選択肢として1がありますが、1はどちらかという「公立学校が頼りにならないから中学から私立と考えると子どもは1人で精一杯」というようなレベルの話に読める。そうではなく、「自分ひとりの生活費ですらカツカツなのだから、子どもを養うなんてとんでもない」というレベルの人も多くいると思う。そのレベルの選択肢が必要ではないか。</p>	<p>選択肢の1を「収入が低く自分の生活に精いっぱい子供を持つ余裕がない（子育てに経費が掛かる。）」と修正する。</p>
23	問31	<p>小学校6年生までならば、「育児・子育て」表記してはどうか。</p>	<p>未就学時までを育児、それ以上を子育てと定義されている。</p>	<p>「子育て」と記載する。 (育児：乳幼児を育てること。 子育て：子を育てること。 出典：三省堂大辞林)</p> <p>※ 一般的に育児は乳幼児・0～66歳までの未就学児の子供を育てることを指す。 一方、子育ては、特に年齢関係なく、学童期までの時期も含む。</p>

3 原案どおりとする事務局案

No.	設問番号	意見	理由	対応
24	全体	回答について、「全て」「三つまで」「ひとつ」がある。「全て」の場合、似たような回答項目があるので、それらすべてに○をつける可能性がある。より近いものを「三つまで」選んで・・・のように、重視するものを選んでいただく方が選択しやすいのではないかと思う。 問11、問20、問22、問23、24、問27. 28		問11、問20、問22、問23、24については、課題の洗い出しをするため、問27. 28については県民の意識を確認するため、「すべて」を選択してもらおう設問としたい。
25	問1	(エ)学校教育の場でこの設問は必要か？	学校教育の場の状況がわからない。	教員の地位や児童生徒に対する教育活動等に男女平等があるかを伺いたい。
26	問2	選択肢2を知っていて、11または12を知らない人がいるか。		選択肢2のDV防止法は知らないが、DVという用語は知っているケースもあると考える。
27	問3	選択肢に、同性婚を認めるべきかを追加する。	本県民意識調査にこの項目に付加することは、同性婚合法化への道筋の議論への端緒となりうると思われる。	現在、同性婚を巡っては裁判中であり、国は、「我が国の家族の在り方の根幹に関わる問題であり、極めて慎重な検討を要するもの」との見解を示しているところであるので、今回は見送りたい。
28	問3	(ウ) 一生結婚しない方が良いのは束縛されるからだけでしょうか。結婚しない理由として挙げているのが束縛だけに違和感がある。		結婚しない理由は、委員意見のとおり様々あると考えるが、前回の調査結果において「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合を見ると、他の年代に比べて20代の男子に多いという結果が出ているため、引き続き、経年変化を見ていきたい。
29	問4	全ての方に回答いただくのはなぜですか。	回答を全ての方に聞くのは、客観的な世間の意見が必要だからでしょうか。結婚しない理由は、本人に聞くべきではないか。	客観的な世間の認識も含めて確認したい。未婚の方の理由は、クロス集計で確認したい。
30	問5	回答欄4「主にその他の人が行う」に()で専門職者を含むを追加。	最近はやや得意な分野の方を活用している例が多く見られるため。	「主にその他の人」には、専門職者を含め両親や子、友人、近隣住民など様々な者を想定しているため。

No.	設問番号	意見	理由	対応
31	問15	選択肢の順番と選択肢の多さを整理できないか。1から3（修正後2～4）の選択肢を1つにまとめてはどうか。	回答時間を圧縮できるのではないかと考えたため。	「2仕事」、「3子育て」、「4介護」と分けて確認することにより、仕事と家庭生活との両立の妨げとなっている原因を分析できるため。
32	問22	選択肢5「女性議員の育児休業の取得に対する社会の理解が得られていないから」を「女性の育児休業の取得や育児による時短勤務に対し、社会がマイナスの評価を行うため」というような趣旨の文言に変更する。	選択肢5について 育児休業が就職や職業の継続に障害となるのは「議員」に限ったことではないので議員という言葉は削除すべき。また、「育児休業」も大きな壁ですが、その後の時短勤務、残業の困難さ（例えば夜間の会議に出席できない）が女性のキャリアアップを妨げているというのが当事者の実感ですので、それを選択肢に加えてほしい。	議員については、育児休業制度が未整備であることを踏まえた選択肢のため、原案どおりとしたい。
33	問23 問24	優遇という言葉に違和感がある。	女子受験生が医学部受験で不利あったことの不透明化が話題となったが、優遇というのは違うと考えるため。	「男性が優遇されている」を「女性が不利」と置き換えることも可能だが、ポジティブな表記としたい。

4 協議をお願いしたい事項

No.	設問番号	意見	理由	対応
34	表紙	(7) 回答にはおおむね30～40分程度かかります。この記載により、最初からやる気をなくす。前回の20分程度がいいのではないか。	前回調査の設問は残し、新しいものを増やすばかりでは、回答に要する時間が増えるばかりと思う。	
35	表紙	(7) 回答にはおおむね30～40分程度とあり、平成26年時には20分なのに、長すぎて回答する方が減ってしまうのではないか。	昨今の社会情勢を考えると、質問項目が増えるのは(調査理由項目)仕方がないとも思うが、回答相手のことを思うと、(回答数を増やすことも)質問項目を絞って時間短縮を考えた方がよいのではないか。	
36	問6	調査項目が3項目しかなく、他の設問と比較しても少なく、新たに加えた「(ウ) 理系は、男性の方が向いている」が唐突な印象を受ける。他の設問とのバランスを考えると、あと2～3項目程度追加してはどうか。	同左のとおり。	
37	問7	「パワハラ」を加える。	近年、マスコミ等で取り上げられる機会が多くなったため。	
38	問22	新たな選択肢に「男女間の賃金格差、セクハラやマタニティハラスメントなどの性差別を温存する職場環境があるから」を追加してはどうか。	職場における女性の活躍推進を進める上での選択肢として、選択肢「2男性優位に組織が運営されているから」だけでは不十分だと考えるため。	
39	問28	選択肢に「少子化が進むから」という趣旨のものは不要でしょうか？	私は、全くそうは思いませんが、保守的な考えの方々はそのように思ってしまうかもしれないと考える。	
40	問30	選択肢に、「仕事や趣味に生きがいを持ち子供を欲しくない。」、あるいは、「子どもを生き育てることにネガティブなイメージを持つ人が増えた」という趣旨の選択肢を加える。	類似の選択肢として9がありますが、決して「楽をしたい」というような安易な考えではなく、「仕事に夢中で子どもはほらない」というような、ほかの事柄に時間を注ぎたいため子どもを欲しない人、「子どもが嫌い」「子どもをちゃんと育てられる自信がない」として出産・育児を躊躇している人も多くいます。そのような方は、もしかしたら他者から見たら「楽をしたい」という考えに見えるかもしれませんが、「楽をしたい」という考えとは大きく異なります。彼らに配慮した選択肢が必要と感じた。	